

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590700076	
法人名	株式会社 アキタニット	
事業所名	グループホームしゃくやく 3号館	
所在地	秋田県湯沢市杉沢字森道下87-20	
自己評価作成日	平成27年1月10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会	
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1	
訪問調査日	平成27年2月4日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所開設2年目にあたり、今年度から地元の中学生の職場体験の受け入れを始めました。地域の方やご家族の方にホームの行事や運営推進会議に参加していただく事で、交流を深めるとともに、ホームの現状のご理解やご協力を仰ぐよう努めております。利用者さんは自分の趣味(裁縫、読書、将棋など)を楽しまれたり、家事を手伝ってくださったりと思い思いに過ごされております。利用者さんがご自分のペースで居心地良く暮らせるよう、職員は明るく笑顔で利用者さんと接しております。全館バリアフリーで24時間換気と冷暖房システムを備えておりますので、段差、温度差のない室内環境で快適に過ごしていただく事ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元での昔からの行事や慣習を忘れない利用者の気持ちを思いやり、家族に協力していただくことによって、ホームに居ても自分なりの生活が送れるよう配慮され、また、電話で話すだけという家族も行事には参加して下さっており、家族の事情も考慮しながら利用者に関わりが持てるよう支援されています。好きな将棋の相手をするための努力をされ、裁縫を得意としていた利用者にはその力を発揮していただけることを工夫され、一人ひとりの生活習慣がホームでの楽しみな生活になれるよう支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、実践できるよう玄関やロッカーに貼り意識づけている。また、個人の1年の目標と、毎月ユニットの目標を掲げ、取り組んでいる。	日常的に体感できるように具体的な介護目標を設定し、ケアの向上に向けた取り組みをされています。ミーティングで達成度を確認、反省し、実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の挨拶や行事への参加を呼びかけ、交流を深めると共に、子供会の廃品回収などにも協力し、地域とのつながりを深めるよう努力している。ホームの行事や運営推進会議にも参加していただいている。	地域の理解が得られる努力をされており、運営推進会議や行事等を通じて交流できる機会をつくっています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通じて地域の代表の方と意見交換やアドバイスをしている。認知症サポーター養成講座や中学校の職場体験の受け入れなどで市民の方へ認知症の理解や支援の方法などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営状況、行事や利用者さんの状況をありのまま報告し、意見交換、アドバイス等を頂き、サービス向上に努めている。	新たな参加者も増え、会議で出された意見や情報を運営に反映できるように取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、地域ケア会議、グループホームネットワークなどに参加し、市町村担当者と協力関係を築けるように取り組んでいる。行政主催の研修会や講演会などにも積極的に参加している。	必要に応じて相談に対応していただくこともあり、積極的に連携されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう社内研修を行い職員が理解できるよう取り組んでいる。夜間の防犯目的以外の玄関の施錠はしていない。身体拘束もない。	拘束にあたる行為であることを気づかないでいることのないように話したりして、職員の理解に繋がっています。拘束をしないことによるリスクを家族に説明し、理解が得られるように取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行い、虐待について学んでいる。日々の生活の中でも都度虐待に成り得る行為等、職員間でも注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し制度の理解に努めている。社内研修でも取り入れ、学ぶ機会を増やしている。繰り返し研修を行うことで理解を深めたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得を得ていただくように努めている。また、不明な点が無いかその都度お伺いし確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日々の生活の中で要望を伺うよう努めている。ご家族からも面会時や電話連絡時等に話を伺ったり、ご意見箱を設置しそれらを運営に反映させている。	要望を出されることはほとんどありませんが、ホーム便りで利用者の近況を報告し、ホーム来訪時等を意見を引き出す機会としています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループミーティング、ユニットミーティングを月1回開催し職員の意見を聞くとともに、日々の申し送りや連絡ノートを活用し、職員の意見を聞き、調整会議の場でその意見や提案を検討している。	管理者は会議や様々な場面で意見が言い合える環境となるように努力されており、出された意見が反映できるように調整会議に諮っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や勤務状況を把握しており、向上心を持って働けるよう資格手当を導入したり、夜勤手当のアップなど、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修への参加の希望を募るとともに、職員の経験年数や力量に合わせ、くまなく各研修が受講できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を図るため、グループホームネットワークや各種研修会、講演会などに積極的に参加し、情報交換しながらサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	良好な信頼関係を築けるよう、穏やかな表情で話を聞き、声のトーンなどにも気を付けて話をするように努めている。また、職員間の情報共有も大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聞き、不安や要望に対して応えられるようにしている。また、納得していただけるように丁寧に説明することでよい関係性ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い『施設』ということを感じさせないように一緒にいて安心していただけるような関係性を築くとともに、料理、洗濯、掃除など、一緒に活動することで支えあう関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、行事などを通じてご家族とのコミュニケーションを図っている。家族関係も考慮しながら、本人との絆を大切に、ともに支えていけるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の方へ電話をかけて思いを伝えたり、なじみの床屋さんや美容院を利用したり、選挙等にも出かけられるように支援をしている。	利用者の趣味や得意なことをしていただき、ホームでの生活に張り合いが持てるように支援されています。家族の協力を得てお盆やお正月に帰宅し、選挙にも連れて行っていただいています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々の性格等を見極め、本人のペースを尊重し、関係性に注意している。共通の話題提供をするなど利用者様同士が良好な関係でいられるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者さんへの面会や、年賀状を出したりと関係性を継続できている。必要に応じて退居後の生活についても相談にのっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の思いを受け止めようと努力しており、記録にも残すようにしている。また、表情の変化などを読み取って寄り添い、不安解消に努めている。必要に応じてご家族の協力も得ている。	利用者の日常の様子や話してくれたことを記録し、希望する生活ができるように検討されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや、ご家族からの話も伺いながら生活歴やこれまでの生活環境、生きがいなどを把握するように努めている。また、日々の会話からもこれまでの生活の様子を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることを見つけるよう努め、一人ひとりに合った生活が送れるよう、業務日誌やケース記録、日々の申し送りを通し職員全員が情報を共有し現状を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々に必要な生活の課題、ケアの在り方について日々の申し送り、月1回のミーティングにおいて話し合い介護計画に反映させている。更新の時期にはセンター方式のシートを活用し、介護計画に反映させている。	介護計画に基づいて記録されており、モニタリングに活かされています。全員でモニタリングを行い、利用者本位の介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の思いをその時の本人の言葉でケース記録に記入し、気づきを共有し対応するようにしている。統一したケアができるよう記録を活かしユニットミーティングで話し合い確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急時の通報に地域の民生委員さんや、行政委員さんの協力得ている。また近所の床屋さんに出張散髪に来ていただいたり、ボランティアマッサージの方にも来ていただくなど地域資源を生かすように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族の希望に添ったかかりつけ医の受診や協力医の月2回の往診、歯科検診などの支援は出来ている。訪問歯科による治療も行っている。また、かかりつけ薬局もありアドバイスを受けられるような体制作りがある。	協力医の往診があつて安心なことから、入居後に変更された利用者もおられます。医科、歯科、薬局と連携し、適切な支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の往診時に看護師に相談したり、電話で相談にのっていただくなど適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関主催の退院連携の研修会に参加するなど、協力医療機関との情報交換や相談が出来るような関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアは現在行っていないが、今後の課題として捉えている。重度化に向けての方針に関しては家族と十分に話し合い、かかりつけ医や包括支援センターとの情報共有、協力の下、支援に取り組んでいる。	終末期のケアには現在対応されていませんが、ホームでできることを医師と相談して家族に伝えられ、医師のアドバイスを受けながら家族と対応を相談されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を受講するとともに、社内研修も行き、応急手当など実践力を身につけることが出来るように努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、避難誘導の仕方や避難経路について習得できるように努めている。また、地域の方の協力も得られるように、自動通報装置への連絡協力をお願いしている。	地震、火災を想定した訓練を実施されています。運営推進会議で実施後の反省点等を報告し、意見をいただきながら今後備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い、行動や言動を否定せず、プライバシーや誇りを損ねない言葉遣いや対応に気を配っている。職員間でも月の目標に掲げたりし、口調や声のトーンなどにも注意している。	利用者一人ひとりを尊重した言葉遣い、急かさずに利用者の力に合わせた対応を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんが自己決定、選択できるようわかりやすい言葉かけをし、希望に沿った支援が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんがその日の暮らしを決めることが出来るよう、ペースや希望にあわせ、出来るだけ思いに沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	行きつけの美容院や床屋さんを利用したり、出張床屋さんで散髪等してもらっている。一緒に買い物に出掛け、好みの洋服を購入したり、髪を好きな色に染めたり、ロットを巻いてブローしたり、おしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会には希望のメニューを伺い、好きなものを食べていただけるように献立に反映させたり、苦手な食材の時は代食を提供している。準備や片付も職員と会話しながら行っている。	食材の買い物や座ってできることをしていただき、台所に立って調理をしたり、味付けを教えていただいたりして長年培ってきた力が発揮できる場面をつくり、楽しく食事ができる支援をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝はトーストを食べる方や、刻み、おかゆなど食事形態も柔軟に対応している。塩分は控えめにし、盛り付けの量も個々に合わせている。また、食事、水分摂取量も記録に残し把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨き、うがいの声掛けをし夕食後には義歯洗浄剤を使用し、汚れや臭いが生じないようにケアしている。本人の意向も伺いながら今後口腔体操も取り入れていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録を参考にしながら、一人ひとりの排泄パターンを探り、早めの声かけをしてトイレでの排泄に向けた支援をしている。オムツの装着は本人の意志を尊重している。	オムツを夜間使用される利用者も希望時のみとし、一人ひとりの状況に応じて自立に向けた支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やウォーキングなどの運動と、十分な水分量(利用者さんによってはコーヒーやカルピスなど)を摂取できるように働きかけている。排便状況により下剤も適宜使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっているが、その中でも可能な限り一人一人の希望する時に入浴できるよう支援している。急がせず、満足していただけるように個々に合わせた時間を確保している。	1日おきに入浴できるように支援されていますが、最初に入りたい方や今日は入らないという方等、その時々希望にできる限り対応できるように配慮されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠に向け、ゆっくりと話を聞いてあげたり、フットマッサージ、アイスノンの使用等も行ったりしている。その時々でソファで休んでいただく時もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の写真を参考にし服薬管理一覧表へ記入することにより、薬の目的、副作用などについて理解するように努めている。薬の処方が変わったときなどは業務日誌等に記載し職員間で情報を共有し、疑問点はかかりつけ薬局へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫、ぬり絵、パズル、オセロ、将棋、花札、カラオケ、買い物、入浴後の他の利用者さんのブローをお願いするなど、その方の好きなことや、出来る事を役割としてやっていただくなど支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	買物や散歩は出来るだけ希望に添うよう努めている。春は桜、秋は菊祭りなど季節に合わせた行事やドライブ後の外食などにも出掛けている。また、家族の協力による外泊(お盆、正月)も支援している。他館の行事への参加や将棋の交流なども行っている。	散歩や食材の買い物を楽しみにしている利用者等、個々の意向を尊重して可能な限り外出できるよう支援されています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避のため、預かり金や所持金を持たない方針である。しかしご本人様の必要なものは購入援助している。買物に出掛けた際には精算などお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話は夜間は預かっているが、基本的には自由に使用していただいている。希望に応じ友人やご家族に、子機を使用して居室で電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を置いたり、季節感のある壁掛けなどを飾っている。臭いが広まらないように消臭スプレーも使用している。居室の照明も好きな明るさに調整できるし、空調にて室温管理も全館できている。行事等の写真を廊下に掲示し楽しんでもらっている。	日差しを調整する落ち着いた色調のブラインドやソファの配置で寛げる環境づくりをされています。ホーム内は全自動で室温を管理されていますが、季節に応じた湿度管理を行い、利用者の健康に配慮されることを期待します。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	居間には二人掛け、三人掛けのソファを二つ設置しており、気の合う方と一緒にテレビを見たり談笑されている。テーブルでは塗り絵や将棋、花札をされている方、雑誌を読まれる方もいたりそれぞれ思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物品を持ち込んでいただき、居心地よく安心して暮らせるようにしている。	キャビネット、畳スペースが設けられて、居室は十分な広さがあり、使い慣れたものや座卓を置いて、それぞれが個性的な環境をつくって生活の場としています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内には段差がなく、安心して移動できる。一人ひとりの能力に合わせ、立ち仕事や座ってでも出来る仕事を分けながら、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。部屋を間違えやすい方の居室にはネームプレートを貼っている。		